基礎経済科学研究所 自由大学院
大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

［第８２４回ゼミ報告］２０２１年１０月８日号

人口密集地で地震、鉄道が止まり駅に人の群れ、タクシー待つ行列と帰宅困難者、７日夜のテレビ報道の光景。前日６日未明に岩手県でも同じ震度５強だが‥

９月２２日のゼミは、マルクス『資本論』第３巻第３６章 「資本主義以前［の状態］」の後半(S613 から)を高橋さんの報告で行いました。ここでは、利子生み資本の産業資本への従属の過程、近代的利子生み資本の発生の過程を論じている。利子生み資本は資本主義的生産に適合させられるとともに、潜性的な資本家・起業家・下層から補充を可能にする。オランダの銀行で古風な高利独占の消滅へ、イングランド銀行が高利資本の独占を奪うとともに、信用貨幣を創造し貴金属の独占を制限した。現代の信用制度は貴金属貨幣を土台としてここから離脱できず、私人による社会的生産手段の独占を前提とし、可能な限り最高・最終の形態まで発展させる推進力である。銀行制度により資本の分配が特殊な業務として社会的機能となり、資本主義的生産の制限を超えて進行する強力な手段であり、また恐慌・詐欺への媒介物ともなる。信用制度は資本主義的生産様式から結合労働の生産様式への移行での強力な槓桿として役立つ。利子生み資本が自己増殖する価値として神秘的で純粋な姿で現れるとともに、生産過程だけでなく個人的消費・家屋への貸し付けで二次的搾取を行う。報告者はこれらの叙述に加え、様々な注釈を加えて述べていった。金融資本が最後の形態であるとしたレーニンに対し、ハーヴェイがそれを認めながら、一方向のみの発展に疑問を呈したこと、信用・銀行制度と未来社会とのつながり、二次的搾取を略奪による蓄積としたこと、また、中世には一般的利子率がない、宗教改革者のルターによる損失補償として利子を是認し商人資本を肯定したこと、など。討論では、ユダヤ人といえば金貸しのイメージに何故なるのか、ナポレオン三世はサンシモンに傾倒していたことなど、多岐にわたって議論をした。出席は、小野さん、高橋さん、川口さん、松村さん、服部さんと高田の６名でした。

＊「コロナ禍の閑居の今ぞ積年の積ん読の書の山崩さばや」高島嘉巳：ある新聞に「コロナに向き合う歌人たち」と題して掲載された短歌のひとつ、そう我らが長年の仲間・高島さんの作品です。さて作者はどのくらい山を崩したのでしょうか。当方はまだまだ積み上がるばかり、読まずに別の山に積み替え、本の数々を眺めています。

＊＊＊＊＊＊ ゼミ日程 ＊＊＊＊＊＊＊

１０月１３日(水)午後６時半～９時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第６章「欠乏の資本主義」 報告斎藤さん
１０月２７日(水)午後６時半～９時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第３巻３７章 緒論・前半 報告小野さん
１１月１０日(水)午後６時半～９時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第７章、第８章 報告者未定
その後 11/24, 12/8, 12/22 (アイクルの部屋)

◇第三学科事務局/高田好章： ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/ Pass: kiso